

令和5年度 【英語科】 授業改善推進プラン

大田区立安方中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・昨年度から小学校との連携で、「書くこと」の項目に力を入れていたが、第1学年で学力格差が大きく、消極的な姿勢で授業に臨んでいる生徒が散見する。更に小学校との連携を図っていく必要性を感じた。
- ・自己紹介やスピーチ発表、ペアワークなどのアウトプット活動を多く取り入れることによって、生徒の表現力やコミュニケーション能力の向上を図ることができた。
- ・昨年度は小学校からの連携で、「書くこと」の項目に力を入れていたが、第1学年で学力格差が大きく、消極的な姿勢で授業に臨んでいる生徒が散見する。更に小学校との連携を図っていく必要性を感じた。
- ・自己紹介やスピーチ発表、ペアワークなどのアウトプット活動を多く取り入れることによって、生徒の表現力やコミュニケーション能力の向上を図ることができた。

(2) 課題

- ・2クラスを3展開する習熟度別少人数指導を取り入れ、より小さい単位で生徒一人一人の学習状況を注意深く見ていく。また、スピーチテスト、リーディングテストやインタビューテスト単元テストなどを通して、英語で表現する力を身に付けられるよう指導していく。
- ・生徒一人一人がタブレットを使用し、学習を進めていけるよう、日頃から授業にタブレット学習を取り入れていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	区の標準スコアよりも少し下回っている。		
第2学年	区の標準スコアよりも少し上回っている。	区の標準スコアよりも少し上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	区の標準正答率よりも下回っている。	区の標準正答率よりも下回った。 (第2学年時)	実施なし (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値より校内平均正答率が下回っている。	区の目標値より校内平均正答率が上回っている。	区の目標値より校内平均正答率が上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値より校内平均正答率が上回っている。	区の目標値より校内平均正答率が上回っている。	区の目標値より校内平均正答率が下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値より校内平均正答率が下回っている。	区の目標値より校内平均正答率が下回っている。	区の目標値より校内平均正答率が下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的な単語テストやスピーチテストを行い、基礎的・基本的な一年生次の英語の知識の定着を図る。	普段の授業から、言語活動を行い、自分のことについて英語で話せる力を身につける。授業での指示等は基本的に英語で行い、英語での会話の理解力を高める。	ICT 機器等を使用して、英語の授業の質を高め、自ら英語を学ぼうとする態度を育成する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙力強化、音読などによって、基礎的・基本的な内容の定着を図る。スピーチテストを行い、話す（発表）の力を伸ばす。	言語活動を中心に、様々なことを英語で表現できる力を身につける。	ICT 機器等を活用して、自ら学習に取り組む姿勢を育成する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙力の強化やディクテーションを行い、基礎的・基本的な内容の定着を目指す。スピーチテストを実施し、話す（発表）の力を伸長する。	言語活動をさらに充実させ、アウトプット活動に力を入れ、基礎的・基本的な内容を口頭および文字を用いて表現できる力の定着を目指す。	自ら進んで学習に取り組む姿勢を育むよう自学ノートに取り組んでいる。今後も、生徒が自主的に取り組めるような環境づくりを心掛ける。